

主日礼拝

2023年2月19日（日）

題 「力づけてやりなさい」

テキスト：ルカによる福音書22章24～38節

皆さん、おはようございます。

今日の聖書箇所には、3つの小見出しがついています。

主イエスは、愛する弟子たちと最後の食事をされた後、三つの話をされました。それは「いちばん偉い者」「ペトロの離反を予告する」「財布と袋と剣」についてです。

順に学び神さまからのみ言葉を頂きたいと願います。

「◆いちばん偉い者」

24:また、使徒たちの間に、自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、という議論も起こった。

十字架の苦しみを前にしたイエスを、弟子たちは理解できずに「自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、」と話していたのです。

そのような心を弟子たちは持っていたということだとも思います。

弟子たちはイエスの心をほとんど分かっていなかった、感じていなかったということです。

そこでイエスは、弟子たちの中の人間関係について教えられます。

25:そこで、イエスは言われた。「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。

26:しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。

人に見せるためではなく、自らの自由な思いで、進んで行くということです。

27:食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。わたしは昔、西ドイツに研修に出かけた時、ある家庭の夕食に招かれた時のことを思い出します。父親がテーブルの周りに座っている子どもたちのお皿を取り、真ん中おいてある食べ物を入れた器から、とりわけ一人ひとりに配る、その姿に感動し、この聖書の箇所を思ったことがあります。わたしが育った家庭では何でも父親からでしたので、経験したことのない光景でした。

そしてイエスは、弟子たちに向かって、

「28:あなたがたは、わたしが種々の試練に遭ったとき、絶えずわたしと

一緒に踏みとどまってくれた。」と語りかけられます。この言葉は、イエスの今まで苦勞を分かち合ってくれた弟子たちへの労わりのことば、いや感謝の言葉のように受けとめました。日常の中で、時に家族にいたわりのことばや感謝のことばを使うことは大切なことなのだと思います。

29:だから、わたしの父がわたしに支配権をゆだねてくださったように、わたしもあなたがたにそれをゆだねる。

30:あなたがたは、わたしの国でわたしの食事の席に着いて飲み食いを共にし、王座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。」イエスは十字架につけられ死んで、よみがえった後、天に昇り、神さまから神の愛の支配を受けた時に弟子たちに、治める力を与えることを約束されています。これは弟子たちや、私たち信徒の希望です。

その後、ただちに「◆ペトロの離反を予告する」場面です。

シモンは、シモン・ペトロのことで、12弟子の筆頭格・リーダーです。

31:「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけて神に願って聞き入れられた。

イエスは、ペトロや弟子たちに対する誘惑がこれからやって来ることを示しています。事実、シモン・ペトロも、「イエスを知らない。」とこの後、言ったのです。主イエスはそれをすでに知っておられたのです。イエスが十字架にかけられる時、弟子たちは小麦がふるいにかけてられたかのように、バラバラに逃げてしまったのです。わたしたち人間の意志や決意の弱さを見る思い思いです。イエスは、ペトロや弟子たちの弱さを知っておられたのです。

そこで、イエスはペトロや弟子たちのことを思い、

「32:しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」と切に切に、神に祈ってくださっていたのです。

何という思いのこもった言葉でしょうか。わたしも洲本教会に赴任して間もなくの木曜日の夜の祈祷会の時にこの聖書箇所のことばに出会い、深い慰めと新たな思いを与えられました。

しかし、ここでもペトロは、ひいては弟子たちは、イエスの心深くの思いを、イエスの愛を理解できなかつたのです。以前「認識は後からやって来る。」という言葉聞いたことがあります。後になって理解できることがあるのです。

ペトロは、イエスに向かって、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」(38節)と自分の覚悟を語ります。

しかし、このように大言壮語したペトロは、この後イエスがユダヤ当局に捕

まると、自分がイエスの仲間であることを三度にわたって「その人を知らない。」拒んだのです。これは決してペトロや弟子たちだけの問題ではなく、時代を超えた私たち、

人間存在の罪の問題なのだと思います。

そこで、イエスはペトロを見つめて、

「34:イエスは言われた。「ペトロ、言うておくれ、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」と語られました。イエスのペトロに対する悲しみと同時に慈しみを感ずります。神の子イエスはペトロを責められないのです。弟子たちやわたしたちをも責められないのです。イエスの愛のまなざしは残るのです。神さまの全き愛は、イエスを通してこの世に、世界に現れたのです。

ここからいよいよ、イエスが逮捕される場面が近づいて来ます。

間違いなく、弟子たちにも危機は迫ります。その時の心構えです。

「◆財布と袋と劍」

以前イエスは、宣教を開始され、12弟子を選ばれたイエスは、弟子たちを二人づつ組にして宣教に遣わされました。その時を思い出すかのように、

35:それから、イエスは使徒たちに言われた。「財布も袋も履物も持たせずにあなたがたを遣わしたとき、何か不足したものがあつたか。」(マタイ10章9節、10節、(P17) 彼らが、「いいえ、何もありませんでした」と言うと、

36:イエスは言われた。「しかし今は、財布のある者は、それを持って行きなさい。袋も同じようにしなさい。劍のない者は、服を売ってそれを買いなさい。」と。

「しかし今は、」とは、イエスの十字架の時です。この「財布と袋と劍」の用意は現実的な勧めであるかのように思えます。ただ「劍のない者は、服を売って、それを買いなさい。」ということばは、これまでのイエスの言葉として、どうなのか？との思いは残りますが、結果として、イエスが劍、武器を使うことはされませんでした。

今日、この「劍のない者は、服を売って、それを買いなさい。」との言葉を利用して用いて、軍事増強を進めることはあつてはならないことです。

武器によって平和が実現することは、世界の長い歴史を確認してもありえないことであることを人類は忘れてはならないのです。まして武器を最初に使用することは戒めなければならないことだと私は思うのです。歴史は大切に、歴史に学ぶことは更に大切です。歴史を軽んじる者は、神を軽んじることに繋がります。そして同じ過ちを繰り返してしまうのです。

この時、イエスは旧約聖書のイザヤ書を心に強く深く覚えておられたと思われ  
ます。得に「苦難のしもべ」と言われるイザヤ書53章です。そのイザヤ書の  
預言は実現するという事です。事実イエスにおいて実現したのです。

37:言うておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれて  
いることは、わたしの身に必ず実現する。わたしにかかわることは  
実現するからである。」と。

わたしたちは、わたしたちと同じように、苦しみの多い地上を生きられたイエ  
ス、人類と被造物の救いのために、ただ一人で十字架に向かう神の子イエスを  
心に覚えたいと願います。

皆様の上に主の平安を祈ります。共に黙想しましょう。